

日本薬学会の創立は本当に明治13年か？(上)

薬学雑誌 1910年度(第340号) C1-42

薬学会の創立はいつか？ 本学会ホームページには「明治13年(1880年)、日本薬学会は我が国では最も古い学会の一つとして誕生しました」と書いてある。本当だろうか。ちょっと疑ってみよう。誰もがネットで自由に見られる薬学雑誌を使って調べてみる。

しかし薬誌の創刊号(明治14年12月)は長輿専齋、長谷川泰の祝詞のほかは学術論文のみ。以後の号も学術記事と会員への通達ばかりで、その1、2年前という会の創立に関する記事は一切書かれていない。諦めかけたら薬誌1910(明治43年)6月号の付録に「日本薬学会沿革史」というものがあった。30年後とはいえ創立メンバーの多くが存命中の公式記録であるから、かなり期待してよい。

既に明治43年の薬学会は医事、衛生、化学、博物の諸科にわたって会員2,750余名を有する大規模学会に成長していた。しかし沿革史によれば、明治13年創立当時は、東大本科の同窓生30人(明治11年、12年の卒業生19人中17人、在校生15人中13人)より成る些々たる小集団に過ぎなかったという。

「明治13年1月、在京の製薬士、神田明神境内の開花楼に会して新年会を催す。酒^{たけなわ}酣なるころ某氏発議して曰く。我が徒、同窓多年その交、水魚^{ただ}雷ならざれども一たび業を卒へて校舎を去るの日は一別東西、容易に相見ること能はず。年^{つひ}久^{つひ}竟に呉越の疎情を生ずるに至らんことを恐る。宜しく今において情誼を永遠に保持するの策を講ぜざるべからず。その方法の一端として今より定期の親睦会を設くべし。」

満場一致これを賛成し、翌2月第4土曜日(きよ)を卜して各自会費15銭を醸し、神田仲町福田屋に親睦会を開く。これを第1回とし、以来毎月集まっていたのだが、親睦以外何も目的がなかった。初めの頃こそ談笑^{きやう}困^{きん}基^きの間に多少の交歓の楽しみもありしなれ、会を重ねるに従い興味衰え、晩秋には会する者わずか3人になってしまった。そしてこのまま明治13年は終わってしまうのである。

創立というには少し寂しい一年ではないか？ 来月もう少し探ってみよう。

小林 力